

日々ぼちぼちと



発行：〒714-1202 岡山県小田郡矢掛町小林27番地
(株)かむら堂 小規模多機能ホームぼちぼち
TEL：0866-82-2277 FAX：0866-82-2279

2014.8.1発行
第24号

このニュースレターは、(株)かむら堂 小規模多機能ホームぼちぼち とご縁のある方に贈ります。

わたしのぼちぼち

そして津山中央病院へ行くのだが、自分は病気の事より、田舎の新庄村を離れて、都会の津山に行けるんだあ〜とワクワクしていたのである。当時は津山の商店街も賑やかで、おもちゃ屋さんの店頭には見たこともないおもちゃが沢山ならんでいゝる。大きなスノーパーもある。なんとたつて天満屋がある。まさに観光気分でレンタルン。病院へ到着し、ひとまず検査。診察室へ呼ばれ、「一ヶ月程度の入院ですね」と。病名は急性腎盂腎炎。(今から考えれば、そりゃあ〜顔も腫れてパンパンになるわ)そして観光気分は打ち砕かれ、付き添いの祖母と共に入院生活を送ることとなるのである。気分は落ちるし、一日何もする事がない。この時勉強でもしていれば賢くなったのか？、しかも病気が病気だけに食事が減塩食なのである。

次号へ続く
(桐岡光明)



スタンインのぼちぼち

こんには、桐岡です。今回は試験を受けに行った事を書きますね。(第一話)
七月六日(日)、私と村上社長は認知症ケア専門士という資格があるんですが、その一次試験受験の為に京都へ行って来ました。
京都に八時過ぎという事で前泊も考えたんですが、前泊して、京都の夜を満喫したら二日酔いで試験どころじゃないなあ〜と思い、朝六時の新幹線で眠い目をこすりながら出発。
京都の、「みやこめっせ」と言う平安神宮の前にある大きな施設(コンベックス岡山みたいな)なんです。この試験何人受験するの？っていうくらい人の山。人の波をかき分けてどうにか試験会場へ。
試験は四分野あり、試験時間は各一時間。私は以前受けた分野があるので午前中の二分野のみ。村上社長は四分野全ての一日。はてさてどうなることやら。
第二話に続く。



今月の予定

今月の予定です。どなたでも自由にご参加・見学いただけますので、お気軽にお越し下さい。何もイベントが等がなくてもお越し頂いて結構です。おいしいコーヒーをお出しします！
8月の予定

- ・そうめん流し
- ・誕生日会 など



ぼちぼちニュース

七夕の飾り付け。みなさん、思い思いの願い事を書いていました。どうか、願い事が叶いますように！



玉葱の煮汁で染めた、玉葱染めの暖簾を作りました。どう？この染まり具合！



ワソポイントアドバイス

★暮らしのヒント★

「よく通るところ」・・・ 入り口から椅子へ、椅子から台所へなど、よく通るところはできるだけ広いスペースをとります。足元ばかり見てしまう人は、棚やテーブルなどの上に置いてあるものに気がつきにくいものです。腕や肩をぶつけてあざになってしまったり、置いてあるものを落としてしまうことがあります。椅子の背やテーブルにつかまりながら歩く人は、足元のものに気がつきにくいものです。電気コードや椅子の脚などが出ていると、つまづいてしまうことがあります。

次号に続く。
出典元・・・イーローゴ・ネット



ぼちぼち奮闘記

山あり谷あり笑いあり

ご家族はなんとか棟梁の車を手放す為に相談にいられた。ニニでポイントなのだ。認知症の方への「おわりや」は厳禁なので、「おわりや」を回避した最後の手段を取るのである。では、「手記」の続き。

私の車は当時、購入して七年目で故障もなく順調だったが、すでに年数の理解は出来なくなっていた。義父に「お父さん、私の車古いでしょ。もう十年だもんね。古いから最近ハンドルの調子が悪いの。エアコンも効かない。ニニに来るの大変なの。」これに対して義父は「おう、それならおしりの車へ乗れ！」

「やったあ。義父の気が変わらないうちに即、車を引き取り車屋さんにも連絡をした。話を合わせてもらうためだ。」

ところがさあ大変。我が家はカーポートが狭くて余分に車は置けない。

(次号へ続く。)

食ペログ シーズン2

今日は矢掛本陣近くの「待鳥」さんに行ってきました。インターネットで「冷やしラーメン」(500円)なるものがある。とあり、何度か足を運びやっと頂く事ができました。スープは澄んでいて良く冷えており、おさびを溶く前に一口頂く。魚介の出汁がガツンと来て旨い。おさびを溶いて食べると、コシのある細麺と相まって旨い。具はきゅうり、ハム、トマト、ゆで卵とシンプルなので、さっぱり美味しく頂きました。他にざるらーめん(400円)もあるみたいです。



(桐岡)



編集後記

先日、株式会社タピオの会長、越智直正氏の講演を聞きに行った。越智さんといえば、中卒から一代で日本一の靴下屋を築き上げた人である。温厚そうな見た目とは逆に、75才とは思えないほどにパワフルで熱い話だった。経営とは、トップの志一つで決まる。トップは社員に夢を語り続けなければならぬ。そして、日々を精一杯夢の実現に向けてがんばるのだと。ぜひ、そうありたいと強く思った。(村上)